

— 千葉工業大学 —

1 月 31 日 A 日程 英語

解答・解説

1.

(1) イ (2) イ (3) ウ (4) イ (5) ウ (6) ア (7) エ (8) ア (9) イ (10) ウ

- (1) 第 2 段第 3 文より。3 方向において水に面しているとあり、続く第 4 文で「西」以外だと分かる。
- (2) 第 3 段第 1 文より。a system of walls (called levees)=the levee system 「都市の中・周りの水を制御する」とある。
- (3) 第 4 段最終文より、Hurricane Katrina の到来は 2005 年 8 月だと判明。第 5 段第 1 文より、8 月 23 日とあり、これは選択肢・ウの near the end of August 「8 月の終わり頃」だと判断。
- (4) 第 6 段第 2 文より。nearly 80 per cent of the city was under the water 「市の 80 パーセント近くが水の下に」つまり選択肢・イ「およそ市の 5 分の 4 が洪水に見舞われた」
- (5) 第 8 段最終文・後半より。「音楽愛好家たちが、犠牲者たちのためのお金を集まるために音楽フェスティバルを開こうと申し出た」とある。
- (6) 第 10 段第 2 文より「刑務所の看守たちはただ姿を消し」、続く第 3 文に「囚人たちのみ残された」とある。
- (7) 第 12 段最終文より。the Superdome に避難していた人たちが別の都市へと移ったのは、not before people had died or fallen ill 「人々が亡くなったり病気になる前ではなく」とある。
- (8) 第 13 段第 1 文より、死者 1,836 人という数字の前に only という語を強調し(1,836 人「だけ」)、続く第 2 文「死者の数より重要なのは…」と家屋の損失や被害額の規模の大きさを強調。
- (9) 最終段第 1 文より。選択肢・イの options は本文 plans の言い換えと考える。
- (10) ア→第 3 段第 2 文・イ→第 2 段最終文・エ→第 13 段第 2 文にて、それぞれ言及されている。

2.

① エ ② カ ③ ア ④ イ ⑤ キ ⑥ ウ ⑦ オ

- ① ①に入る a problem を受けて、続く段落の第 4 文に the problem とある。
- ② ②の前に「6 月に結婚しないでおこう」とあり、続いて「もう少し待とう」それを受け、次の Lynn waited ...and waited.に続く。
- ③ Lynn に浮かんだ an idea が、③の後の文に書かれている。
- ④ 前文も命令文。「John に、あなたが今週土曜日に結婚するって伝えて」の後「彼(=John)をあなたの結婚式に招待して」
- ⑤ 前文の内容を受けて「それはトリックだった」
- ⑥ 「突然理解した」内容が、⑥に続く文にて書かれている。
- ⑦ ⑦に続く最終段からも、John と Lynn が結婚したことが分かる。

3.

(1) イ (2) ア (3) エ (4) ア (5) ウ

- (1) 「...すぎる」は too...と表現する。...の箇所には形容詞(または副詞)が来る。
- (2) 「期待よりも」は「期待されていたよりも」ということ。過去分詞 expected を用いる。
- (3) 結果を表す不定詞の用法。
- (4) S have the effect 「S は効果がある」基本的に affect はウ・エのように、名詞では用いない。※名詞の場合は、心理学の専門用語で「(身振り手振りに表れる)感情、情緒」という意味。
- (5) エ three years before は「過去のある時点を基準にして」3 年前という意味。過去完了時制なら可。

4.

- (1) イ (2) エ (3) ア (4) ウ (5) ウ (6) ア

- (1) **stay up** 「(寝ないで)起きている」後に **late** が続き「夜更かしする」ということ。
(2) 要求・提案・命令の動詞に続く、**that** 節中の動詞の形【原形または **should**+原形】。**that** 節が受動態になっていることに注意。
(3) **despite** 前置詞。「～にも関わらず」イは **in spite of** なら可。ウ、エは接続詞。文法的に不可。
(4) **heavy** は「(雪・雨などが)ひどい」の意味で用いられる。
(5) **revise** は他動詞「(人が) (書物) を改訂する」本問は過去分詞の形容詞的用法。名詞 **edition** を修飾。
(6) ウは副詞のため不可。イヤエなら、冠詞は **a** ではなく **the**。 **recent** は形容詞「最近の」

5.

- (1) エ (2) ア (3) ア (4) エ (5) ウ (6) イ

- (1) **pick out** 「(物・人) を選び出す」
(2) **carry out** 「O を遂行する, 実行[実現]する」 **fulfill** 「(夢・目的など) を実現させる, 果たす」
(3) **be sick of** 「～にうんざりして」
(4) **look into** 「(問題など) を研究する, 調査する」 **examine** 「(物・事) を調査する, 検査する」
(5) **think of** 「しばしば **can** を伴って」...を思い出す」
(6) **take up** 「(人・物が) (時間・場所など) をとる, 占める」

総評

1. 長文総合問題

センター試験と比べても、同じかやや易しいくらいのレベルの問題。ただし文章中で分からない(未知)の語句が数多くあると、読むのは大変になってしまいそう。逆に言えば語彙の問題さえクリアできれば、センター試験に比べれば時間に余裕がある訳で、各問いの答えを探すべく忠実に英文を読んでいければ全問正解も夢ではない。

2. 会話文挿入問題

こちらも大問1同様、いやそれ以上に平易な英文。特に、空欄の「後」の内容に着目するのがポイント。

3. 和文英訳・選択問題

純粋な和文英訳に比べれば易しいのは間違いないが、選択肢があると迷ってしまうといった面もあるうか。迷ったらそこで停滞せずに「次」へと進むのが肝要。

4. 短文空欄補充・選択問題

主には文法的知識を問うもの。平易なので全問正解も可能。

5. 同意語句・選択問題

単語・熟語の知識問題。「知っていれば難なくできる」「知らないとできない」...普通の「覚える」系の地道な学習成果が反映される。

～全体を通して～

時間的にも余裕がありそうで、比較的しっかり英語の学習に取り組んでいた受験生にとっては、平易で取り組みやすかったのではないのでしょうか。

ただしその域に達していない人にとっては、「知らないものは答えられない」わけで、受験生間で「差」が付きやすい出題だったと言えるのではないのでしょうか。